



2017年6月に開催された「東北絆まつり2017仙台」の様子 (提供: 仙台市東北連携推進室)

「東北絆まつり2024仙台」が開催されます

東日本大震災からの更なる復興と、その先の未来へ向けて前進するために始まった「東北絆まつり」。「青森ねぶた祭」「秋田竿燈まつり」「盛岡さんさ踊り」「山形花笠まつり」「仙台七夕まつり」「福島わらじまつり」の6つの祭りが集結し、東北の勇気と未来への希望を発信してきました。2024年は、仙台を会場に開催されます。ぜひ会場で東北の熱気をご体感ください!

開催時期: 2024年6月8日(土)・9日(日) / 開催場所: 仙台市内



特集 今後拡大する仙台のインバウンド

データで見る仙台

各事業のご紹介(観光事業部・MICE事業部・国際化事業部)

せんだい・宮城フィルムコミッション設立20年を迎えました

仙台・青葉まつりが40回の節目を迎えます



今後拡大する 仙台のインバウンド

コロナ禍を経て世界的に旅行の需要が回復した2023年。国内の訪日外客数は、2023年10月には2019年同月比100.8%の2,516,500人となり、新型コロナウイルス感染症拡大後初めて2019年の数値を超えました(※1)。政府は2030年に訪日外国人観光客数6,000万人を目標に掲げており、仙台においても今後インバウンドが拡大していくことが期待されます。

今回は、観光産業やMICEなど様々な角度から仙台における最新のインバウンドの現状をお知らせします。
(※1 JNTO 訪日外客数(2023年11月推計値))

● 仙台の体験プログラムが外国の方にも人気!

体験プログラム専用WEBサイト「仙台旅先体験コレクション」に掲載されている体験プログラムの中には、外国語対応可能な事業者も多く、訪日外国人観光客の参加が増えています。仙台駅2階の「駅たびコンシェルジュ仙台」で行われたミニ七夕飾りづくり体験(株式会社なでしこ)には、中国からの観光客が参加し、時には身振り手振りを交え、スタッフの方々と楽しくコミュニケーションをとりながらミニ七夕飾りを完成させました。その他にも、着物や浴衣の着付けなど、日本文化体験も訪日外国人観光客に人気です。

旅先での体験は、観光客が自らもの作りや文化体験をすることで地域の事業者とのつながりが生まれ、二度三度と仙台を訪れるきっかけとなることが期待できます。当協会としても、今後も訪日外国人観光客向けの体験プログラム創出事業の活性化に取り組んでまいります。



仙台旅先体験
コレクション



仙台旅先体験コレクションサイト

▶ <https://sendai-experience.com/>



ミニ七夕飾り作り体験の様子

参加者のコメント

一人ではなかなか作ることができない
素敵なものを作ることができて
とっても嬉しかった。
大切に飾ります。

事業者：株式会社なでしこ

日本文化体験の様子



事業者：和んだふる和一ど

● 続々増える訪日外国人宿泊者。宿泊施設側の受け入れ体制は、今

仙台でも訪日外国人宿泊者が増え、また国内旅行の需要回復も重なり、コロナ禍前に戻りつつある宿泊業界ですが、同時に市内の宿泊施設では訪日外国人宿泊者対応と人手不足が深刻な問題となっています。そのような中、そのどちらにも対応できる外国人従業員が活躍しています。

仙台圏の外国人労働者数は2022年10月末時点で約1万人となっており、その内、最も多いのが「卸売業、小売業」で18.5%、次に「製造業」が16.2%であり、「宿泊業、飲食サービス業」は11.8%と3番目に多い割合を占めています。(※2)

今回は、奥州秋保温泉 蘭亭にお話を伺いました。現在ベトナム人の従業員2名を雇用しており、それぞれ接客、調理を担当しています。さらに2023年7月からは、ベトナムからのインターンシップ生4名も従事しています。SNSでは外国人従業員の活躍を積極的に発信しており、楽しく働く様子が伺えます。

今後加速するインバウンドを受け入れるためには、宿泊者への対応もできる外国人従業員の力が不可欠です。そのためには、言語や文化の違いを乗り越える、外国人従業員の働きやすい環境づくりを行うことが求められます。

(※2 宮城労働局「外国人雇用状況」の届け出状況まとめ(2022年10月末))



蘭亭のSNSより



ベトナム人女性
(Aさん)
2021年6月～



ベトナム人男性
(Bさん)
2022年12月～

【担当業務】通訳や翻訳、簡単な接客業務、他の外国人労働者の相談役等

【担当業務】和食調理人

Q. 蘭亭で働くことになった経緯は?

Aさん 元々学生時代にインターンシップをしていて、ベトナムに帰り卒業したのちに改めて入社しました。

Bさん 和食調理人を募集していたときに、登録支援機関からの紹介で入社しました。

Q. 印象に残っている仕事のエピソードを教えてください。

Aさん やはりお客様から「ありがとう」「海外から来たのにすごく日本語も上手だし、頑張ってるね!」と声をかけて頂いたこと。

Bさん 日本料理は難しい漢字や言葉、食材が多く覚えるのがとても大変だったこと。

Q. 秋保、または仙台の好きなところは?

Aさん 好きなところは、秋にライトアップする磊々峡。街中のアニメショップやアーケードに行くのが好き。

—ご協力ありがとうございました!

外国人対応力向上セミナーを開催しました

当協会では2023年9月20日(水)に、外国人対応力向上セミナーを開催しました。今回のセミナーは仙台国際ホテルにて開催された「東北インバウンド&体験フェア」(主催:株式会社NCL企画)のセミナーイベントの一環として実施し、約60名の方々にご参加いただきました。

株式会社mov(訪日ラボ)の川西 哲平様を講師としてお招きし、データから見る全国及び東北・宮城のインバウンドの現状に加えて、今後のインバウンド対策について、Googleマップに表示される「Googleビジネスプロフィール」を中心にお話しいただきました。オーナー登録をし、内容を整備して運用することで、国内の集客だけではなくインバウンド集客にも有効であることや、実際にインバウンド集客に成功した事業者の実例もご紹介いただきました。今後もより実りあるセミナー開催に向けて努めてまいります。



● オンラインから現地開催へ!変わるMICEの現場

2019年には仙台で671件のコンベンション(学会・会議)が開催されていましたが、コロナ禍の2020年には152件、2021年には134件まで減少し、世界的にオンライン・ハイブリッド(現地・オンライン併用)開催への移行が進んでいました。アフターコロナを迎えた2023年は、徐々に現地開催が増えました。

仙台でも、2023年5月に開催された磁気工学国際会議2023(Intermag2023)、同じく2023年5月のG7仙台科学技術大臣会合など、国内外から多くの参加者が集まり、大きな経済波及効果をもたらしました。積極的なMICE誘致を行う上で、仙台ならではのユニークベニューの活用や、レセプションも重要な要素となっています。Intermag2023では盆石体験・マイ箸作り体験ブースを設置し、外国人の会議参加者の行列ができるほど喜ばれました。また、2023年8月にサンモール一番町商店街で開催された日本神経科学大会の懇親会は、まち全体を使ったおもてなしで仙台開催の魅力を伝えました。

一方、国際的なMICEのトレンドは時代とともに変化しています。海外で行われる国際会議では、ベジタリアン向けのメニューが全員に提供されることが増えており、宗教や文化の違いによる食事の壁を取り払うことでスムーズな交流に役立っているといえます。その他にも、水はマイボトルに給水することで紙コップやペットボトルのごみを出さないなど、SDGsの観点が意識された取り組みが定着しています。

今後は国内、および仙台でのMICE開催においても、食の多様性やSDGsへの対応が必要になってくると考えられます。

日本神経科学大会 懇親会の様子



【国際会議の例】タイ・バンコクで開催されたCCA Congress2023(2023年11月)の会場の様子



ブレイクタイム中のミニスイーツ。ココナッツ味のライスプディングで、ビーガンでも食べられるように配慮



※当協会撮影

透明なプラスチック製の水筒が配られ、会場各所に設置してあるウォーターサーバーから適宜給水するシステム

● 伝統技能を守るべく、海外進出支援を行う門閥筆筒店

観光資源としても重要な伝統工芸は、仙台ならではのお土産として購入されるだけでなく、海外への輸出が促進されています。

1872年に創業された仙臺筆筒の老舗・株式会社門閥筆筒店は、2014年から海外へ進出し、コロナ禍が始まって間もなく大町の自社店舗を閉め、2021年12月から香港に初の路面店を出店しました。現在香港に2店舗、上海やシンガポールでの期間限定ショップの運営も行っており、その結果、現在は売り上げの7~8割を海外が占めています。

そんな門閥筆筒店では、香港の店舗で自社商品の販売に加え、海外進出の経験をノウハウとして活かし、東北の伝統工芸の海外進出支援にも力を入れています。2021年6月には香港の店舗で福島県の漆作家の作品を個展として展開し、はじめての海外輸出を全面的に支援しました。ほかにも山形県の事業者の商品を販売するなど、はじめから実店舗で商品販売することで、海外販売のハードルを下げ、多くの事業者のチャレンジを支援しています。

門閥筆筒店が目指すのは、メイド・イン・ジャパンの伝統工芸品の魅力を広く知ってもらうこと、そして職人の伝統技能を次世代に引き継いでいけるよう、ものづくり企業を支援していくこと。海外進出支援の相談は随時受け付けているということで、市場を海外に広げたいけれど不安がある、という事業者の方に知っていただきたい取り組みです。また、海外での販売により、仙台・東北に興味を持ち、直接足を運んでいただくことも期待されます。



まとめ

今回ご紹介したのは一例で、拡大するインバウンドの受け入れに向けた対策は各所で進み始めています。しかし、仙台市全体として見ると、まだまだインバウンドの受け入れ体制の整備が必要な状況です。当協会としては、今後も仙台市と連携しながら、各事業者・各団体の皆様とインバウンド対策に取り組んでまいります。

データで見る仙台

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行し、観光が本格始動した2023年。さらなる観光の活性化を図るため、仙台市と連携し推進しているデジタルマーケティングで観光動向を把握し、分析結果などを情報発信するとともに、データに基づいた施策につなげる取り組みを行っています。その中から、仙台への訪問者の動きなどを中心に仙台の観光を読み解いていきます。

デジタルマーケティングのより詳細な分析結果は、賛助会員の皆様向けに発行している会員限定版のレポートでご覧いただけます。ぜひご利用ください。

動態データ

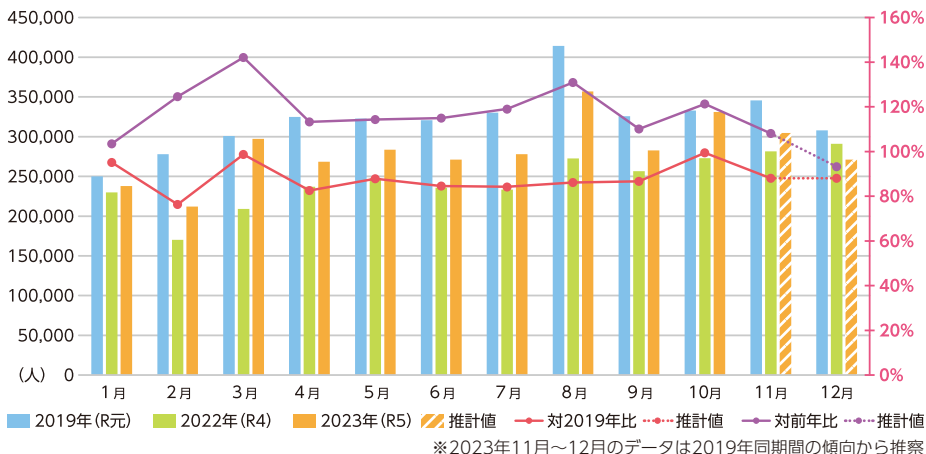
仙台市の延べ宿泊者数

仙台市の宿泊者数は2019年に過去最高となる624.2万人を記録しましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年には356.7万人まで減少しました。

そこから2021年は363.4万人、2022年は476.6万人まで回復し、2023年は1月～10月で258.1万人と、前年比121%となりました。(※2023年12月末時点)

一方、2019年比では同期間（1月～10月）で87%となっており、順調に回復している様子です。

※「宿泊旅行統計調査」(観光庁) <https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html#cp1> を加工して作成



※2023年11月～12月のデータは2019年同期間の傾向から推察

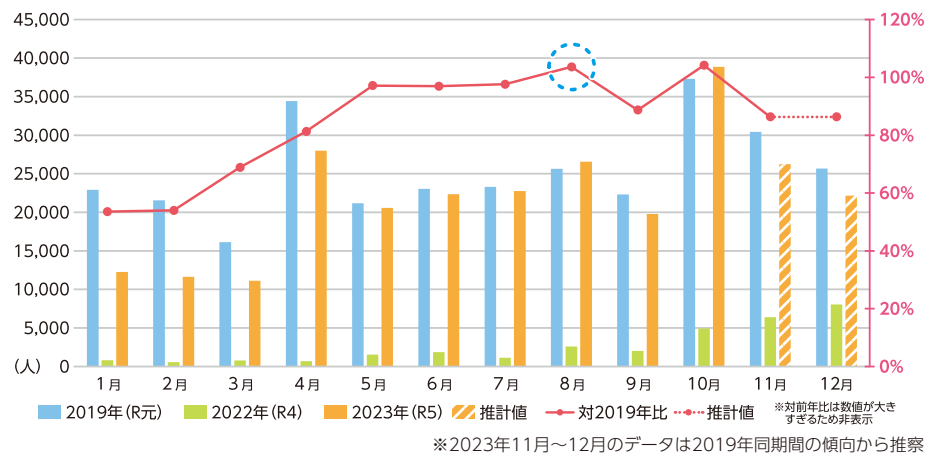
仙台市の延べ外国人宿泊者数

日本全国では、訪日外客数は2023年10月に2019年同月比100.8%となる251.6万人を記録しています。

仙台市の外国人宿泊者数は2019年の33.5万人が過去最高記録でしたが、2020年は7.1万人、2021年は1.8万人、2022年は3.4万人と3年間はほぼ動きがない状態でした。

水際対策がすべて撤廃された2023年は急激に増加し、8月には2019年同月比104%と、新型コロナウイルス感染症拡大以降はじめて2019年の数値を超えました。2023年の第一四半期は2019年同期間比回復率が70%未満で推移していたため、年間合計で見ると80%程度になると見込まれます。

※「宿泊旅行統計調査」(観光庁) <https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html#cp1> を加工して作成



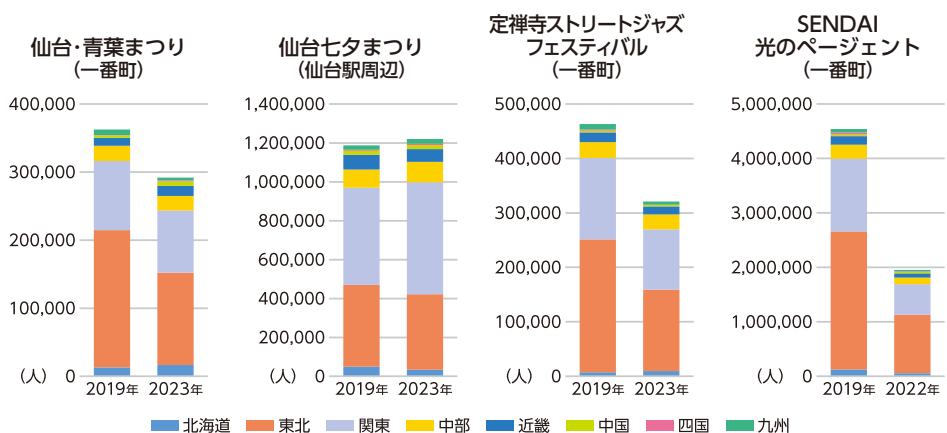
※2023年11月～12月のデータは2019年同期間の傾向から推察

4大イベントの動向

人流データから4大イベントへの来訪者数を見ると、2023年の仙台・青葉まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、2022年のSENDAI光のページェントはまだ2019年を下回っている状況です。それに対して、2023年の仙台七夕まつりは2019年比を超えています。特徴として、関東からの来訪が増えており、東北からの来訪は減っています。

仙台七夕まつりの来訪者は2023年の推移から想定すると、2024年も関東からの来訪が見込まれます。関東からの観光客は1泊以上の宿泊旅行が多いため、イベント時の宿泊者数増加も期待できます。

※仙台市観光DMP/Agoopより、2023年12月末時点の数値(公式発表の数値とは異なる)

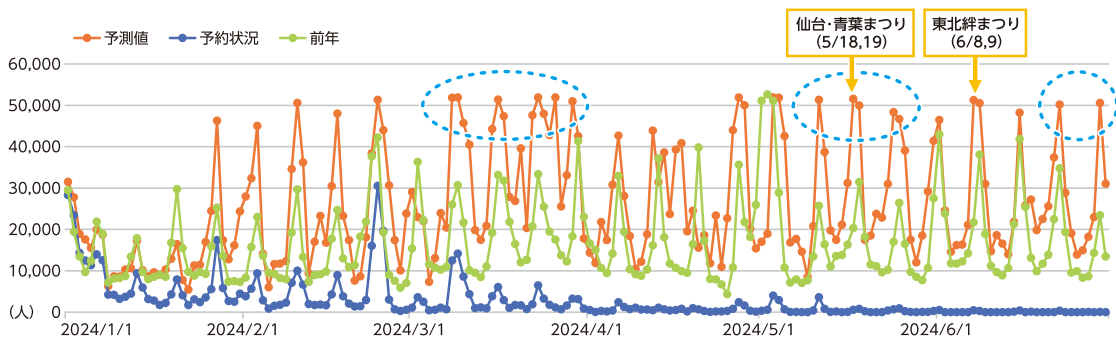


※ ()内は各イベントが開催されるメインスポットを指す

2024年6月までの宿泊予報

2024年6月までの仙台市内宿泊者人数（国内旅行・インパウンドの合計値）を予想。波形としては概ね同じで、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、2024年5月までは前年比大幅増が見込まれています。

※2024年1月時点の予報値



出典：観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」(https://kankouyohou.com/)

WEBサイトのアクセス分析

仙台市の観光情報WEBサイト「せんだい旅日和」、体験プログラム専用WEBサイト「仙台旅先体験コレクション」、インパウンド向け多言語観光情報WEBサイト「DISCOVER SENDAI」のアクセス状況を見ていきます。

【せんだい旅日和】 PV数：6,223,596 (前年比140%↑)		【仙台旅先体験コレクション】 PV数：2,279,488 (前年比216%↑)		【DISCOVER SENDAI】 PV数：312,954 (前年比232%↑)		
順位	ページタイトル	順位	ページタイトル	順位	ページタイトル	言語
1	仙台城跡(伊達政宗公騎馬像)(観光スポット)	1	高級ぶどう40分間食べ放題プラン 山元町産ぶどう狩り	1	One Day Journey to Matsushima(松島への日帰り旅行)	英語
2	仙台大観音(観光スポット)	2	阿部蒲鉾店本店 笹かまぼこ手焼き体験	2	Soft Rime Trekking Tour(樹氷トレッキングツアー)	英語
3	絶景の松島・仙台を巡る旅(モデルコース)	3	松島熱気球体験	3	SENDAI Pageant of Starlight(SENDAI光のページェント)	英語
4	定番!一泊する仙台で行く伊達家ゆかりの三名所(モデルコース)	4	カメイアリーナ仙台施設見学ツアー	4	新春楽遊仙台と松島、参り禮券紅包免費拿(仙台と松島で大晦日を楽しもう)	繁体字
5	美味しいもの(グルメ情報)	5	酒蔵・ワイナリー見学の体験プログラム	5	松島一日遊(松島への日帰り旅行)	繁体字
6	秋保大滝(観光スポット)	6	ガラス工房 元	6	松島湾観光船(松島湾観光船)	繁体字
7	3時間で巡る仙台街なか探訪(モデルコース)	7	笹かま手焼き体験の体験プログラム	7	Getting to Sendai(仙台への行き方)	英語
8	仙台藩祖伊達政宗公霊屋 瑞鳳殿(観光スポット)	8	親子でお出かけ♪体験特集	8	ไฮไลต์ของฤดูหนาวในเซนต์(仙台の冬の見どころ)	タイ語
9	1泊2日で行く!秋保温泉の旅(モデルコース)	9	宮城峡蒸溜所 一般見学	9	仙台市内的交通資訊(仙台市内の交通情報)	繁体字
10	『ハイキュー!!』日向翔陽・影山飛雄(仙台観光特使)記念モニュメントが登場!!(観光スポット)	10	その他、伝統工芸・ものづくりの体験プログラム	10	Relaxing in Onsen(温泉でリラックス)	英語

定番の観光スポットやモデルコースが上位を占めており、仙台にはじめて旅行する人も多く見ていると考えられます。

前年同期間の2倍以上のPV数となり、サイトの認知拡大が図れました。仙台ならではのグルメ(笹かまやお酒)を体験できるプログラムがよく閲覧されました。

インパウンド需要回復に伴い、前年同期間の2倍以上のPV数となりました。松島に関する記事が上位に入り、また冬のコンテンツもよく見られていました。

※PV数は2023年1月～12月の数値

訪日外国人観光客ヒアリング調査

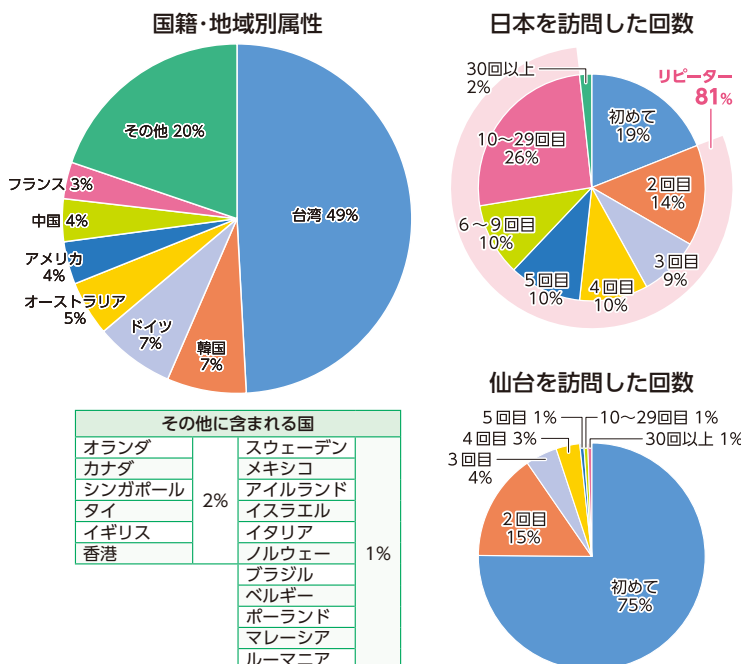
当協会では、訪日外国人観光客の観光実態を把握する目的で、2023年10月に訪日外国人観光客に対するヒアリング調査を実施しました。調査結果の概要をお知らせします。

観光実態のポイント

- 80%以上の訪日外国人観光客が日本への訪問経験がある
- 仙台を来訪する訪日外国人観光客の75%が初めての来仙である
- 来訪の目的としては、「自然・風景」「グルメ」「歴史・文化」の順に多い
- とても満足、満足と答えた人は87%と非常に高い満足度を示している
- 絶対に再訪する、再訪する可能性が高いと答えた人は約77%と高い再訪意欲が確認できる

【アンケート調査概要】
 調査時期：2023年10月7日、8日・・・仙台城跡、仙台駅
 10月3日、10日・・・仙台空港
 調査対象：観光を目的として仙台に訪問、宿泊した訪日外国人観光客
 調査n数：177名

【調査手法】
 対面アンケート方式





各事業のご紹介

観光事業部

TEL.022-268-9568

青葉山の魅力を再発見！ 「仙台城登城路巡り」を実施

2023年11月3日(金・祝)～23日(木・祝)の土日祝に、仙台市観光ボランティアガイドネットワーク事業*の一環として「観光ボランティアガイドと仙台城登城路を歩こう！」を実施しました。青葉山に新たに整備された「仙臺緑彩館」を出発し、ガイドの案内を聞きながら、かつての登城路を巡り仙台城跡本丸まで登城する本企画は、参加者に非常に好評で、期間中、105名の参加者をご案内いたしました。今後、「仙台城登城路巡り」を新たな観光コンテンツとして活用できないか、アンケート結果や参加者及びガイドの皆さんのご意見も踏まえ、引き続き検討してまいります。



研修でガイドの案内を聞く参加者

*当協会は、仙台市内で活動する観光ボランティアガイド17団体(2023年12月時点)が所属する「仙台市観光ボランティアガイドネットワーク」の事務局を担当しています。

国内外の観光客に向けて 体験プログラムの利用促進を図ります！



仙台旅先体験コレクションフェスティバル2023～夏博～の様子

2023年度は、体験プログラムの更なる利用促進を図るため、体験PRイベント「仙台旅先体験コレクションフェスティバル2023」の開催や、体験プログラム専用WEBサイト「仙台旅先体験コレクション」及び公式SNS等を活用した各種プロモーションなどを実施しております。



インバウンド対応の体験プログラム(あかがねワークショップ)

2023年6月には、ばらんど～む一番町商店街で「仙台旅先体験コレクションフェスティバル2023～夏博～」を開催し、2日間で延べ40事業者が参加し、前年の約2倍にあたる3,800名ほどの方に体験プログラムを楽しんでいただきました。

さらに、「仙台旅先体験コレクション」の閲覧回数も、前年比約2.5倍(2023年12月末時点)と大きく伸びており、体験プログラムの認知拡大に貢献しました。県内外からの誘客につながる仙台の魅力の一つとして、引き続き体験プログラムのプロモーション、および利用促進に取り組んでまいります。

また、訪日外国人観光客による体験プログラムの利用促進を図るため、プログラムの磨き上げや事業者の皆様への受入環境整備等、インバウンド対応力の向上に取り組みながら、付加価値の高い仙台ならではの体験プログラムの創出にもさらに力を入れてまいります。

仙台旅先体験コレクションサイト

▶ <https://sendai-experience.com/>



宮城県タクシー協会仙台地区総支部への インバウンド向け事業者支援を実施中

本格的なインバウンドの回復に向け、事業者支援事業の一環として、2023年度は宮城県タクシー協会仙台地区総支部を対象に、人材育成及び受入環境整備、集客及びコンテンツ販売促進の支援を行っています。

本事業では、加盟各社のドライバーさんからのアンケート調査に基づき、訪日外国人観光客の受入に際しての課題を抽出すると共に、具体的な改善案としてドライバー向け研修会や、外国語WEBサイトの支援、音声ガイドダンスや日本語会話シートなどの整備に取り組んでいます。また、モニターツアーを実施した上で、最終的に訪日外国人観光客向けの仙台ならではのタクシープランを造成し、販売に繋げていく取り組みを実施しています。



観光プロモーションと連動し、 物産品の認知度向上を図ります！

仙台の物産品の認知度向上・販売機会の創出を図るため、JR仙台駅やコンベンション会場等での市内催事の開催に加え、就航都市や姉妹都市等における観光プロモーションと連動した県外での物産品販売を行っています。また、当協会で運営するオンラインショップ「伊達な銘品横丁」を活用し、ショップ特別企画の実施やオリジナル商品の販売を行うなど、WEBでの仙台の物産品の情報発信も行っています。

2023年5月には、仙台・青葉まつりと連携企画として、JR仙台駅にて物産展を開催し、仙台駅を訪れる観光客等にまつりの宣伝及び、まつり関連商品を販売しました。また、仙台・青葉まつりに限らず、市内外のイベントや物産関連団体等と連携を図り、販売機会の創出に取り組んでいます。



「伊達な仙台いいもの・いい旅フェア(大阪)出展の様子

例年開催している「仙台市工芸展」では伝統的工芸品の展示を行っており、来場者が工芸品を身近に触れることができる機会を創出しています。今後も伝統的工芸品の認知度向上や新たな需要の開拓につながるような事業を展開してまいります。

2024仙台市工芸展

【開催日程】

2024年

2月16日(金)～19日(月)、
21日(水)～25日(日)

【開催場所】

エスバル仙台本館 1F
エスバルスクエア



仙台市工芸展の様子

仙台観光国際協会オンラインショップ

「伊達な銘品横丁」▶ <https://datanameihin.com/>



エリア別ブランディングの推進を図ります

仙台市と連携し、仙台市を4つのエリア「東部」「中心部」「秋保」「作並・定義」に区分け、それぞれのブランディングを地域の事業者の皆様と進めています。



2023年には、ひとつの取り組みとして仙台市の観光情報WEBサイト「せんだい旅日和」においてエリアのコンセプトである「ゆっくりじっくり作並・定義リトリート」「暮らし+ せんだい海手リゾート宣言」を紹介する特集ページを掲載しました。今後も各エリアの魅力を広く発信してまいります。

※リトリート：語源はリトリートメント(RETREATMENT)。近年欧米では「日常生活から離れてリフレッシュする時間をもち心身ともリセットする」といった意味で使われ、新たなリフレッシュ法として注目を浴びている。

仙台西部地区のPRなどを促進します

2024年6月に秋保では「日本温泉協会 会員総会」の開催が予定されており、全国から温泉関係者が集まります。当協会では開催支援を行うほか、温泉地である「秋保温泉」・「作並温泉」が仙台市内にあることを知らない方々にアピールするため、「仙台秋保温泉」・「仙台作並温泉」という表記の使用を進め、仙台市内の両温泉の認知度向上を図ります。更に訪問者数の増加が見込まれるインバウンドにも対応するため、観光案内MAPで両温泉のアクセスの良さをPRしてまいります。

また、「秋保・作並定義・泉西部観光振興事業助成金」により仙台西部地区の交流人口の拡大に資する地域資源の磨き上げやサービスの品質管理・向上・評価する仕組みや体制の構築、併せて仙台西部地区の課題となるイベント運営などの「人手不足」解消に向けた対策を検討してまいります。



MICE事業部

TEL.022-268-9603

仙台コンベンションおもてなし研究会を開催しました

2023年10月20日(金)、11月10日(金)に「仙台コンベンションおもてなし研究会(全2回)」を開催しました。この研究会は、当協会賛助会員の皆様向けに、仙台でのコンベンション開催時のおもてなし力向上を目的に開いているもので、4年ぶりの開催となりました。コンベンション業界でも話題になっている「SDGs」への取り組みをテーマに、第一回では環境政策学がご専門の東北大学大学院環境科学研究科・松八重一代教授をお招きし、環境に配慮したMICE開催とSDGsへの対応についてご講演いただきました。松八重教授の講演では、学会を持続可能なものにしていくためのアイデアが多数出され、参加した方からは「仕入れコスト重視になってしまいがちだが、消費者側のニーズに沿って会社側の意識も変えていかなくてはいけない」、「自社で既に実施していることのアピールも大事だと感じた」などの声が聞かれました。第二回では、第一回を振り返るとともに、「仙台らしいMICEのSDGs対策」についてグループで議論がされ、各グループからは「学会で出されるお弁当の食品ロス対策」や「SDGsに関する独自のガイドラインとメニュー作成」が提言されました。

MICE事業部としても引き続きSDGsの観点を持ち、賛助会員の皆様への支援を行ってまいります。



2023年度MICEレベルアップセミナーを開催します

2024年2月14日(水)、仙台国際センターにて「MICEレベルアップセミナー」を開催いたします。観光庁「ポストコロナに向けた国際会議誘致力向上事業」に参加された学会の先生方とパネルディスカッション形式にて結果を振り返る内容を予定しております。

【開催日程】2024年2月14日(水) 【開催場所】仙台国際センター

仙台コンベンションナビ▶<https://www.sentia-sendai.jp/conventionnavi/>



※「MICE」とは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行=Incentive Travel)、各種機関・団体・学会等が行う会議(Convention)、展示会・見本市・イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称です。

せんだい・宮城フィルムコミッション設立20年を迎えました

ロケ誘致・支援を通じた観光振興に取り組んでいきます!

せんだい・宮城フィルムコミッション(FC)は2023年4月に設立20年を迎えました。6月には地域の皆様にFC活動の理解を深めていただく機会として、セミナーや支援作品の上映イベント、ロケ地巡り企画を実施し、県内にとどまらず北海道から関西まで遠方から多くの方にご参加いただきました。

設立から20年で問合せ・相談を含め映像作品の支援件数は3,000本を超え、宮城県内におけるロケ隊の滞在による宿泊・飲食費などの直接経済効果は10億円以上に上ります。

FCの取り組みをきっかけに、ロケによる地域活性やシティセールスとともに地域の皆様が地元を誇りを持ち、その魅力を再認識いただけるよう、今後もロケ誘致・支援に取り組んでまいります。

せんだい・宮城FCのWEBサイトでは映像制作者に向けた仙台・宮城のロケ候補地の情報発信のほか、支援作品のロケ地や撮影の裏側を紹介した特集も掲載しています。仙台・宮城のロケ地巡りの参考にぜひご覧ください。

せんだい・宮城フィルムコミッションサイト▶<https://www.sendaimiyagi-fc.jp>
TEL:022-393-8416



FC20周年記念セミナーの様子



映画「アイネクライネナハトムジーク」
仙台ロケ地街歩きの様子

多文化共生社会の実現に向けて

コロナ禍に減少した市内の外国人住民数が、2023年は増加に転じその数は約1.4万人と過去最高となり、2024年も更なる増加が見込まれます。国際化事業部では、外国人住民との共生社会実現に向けて、様々な事業に取り組んでまいります。

国際化事業部サイト

▶ <https://int.sentia-sendai.jp/j/>



仙台多文化共生センターの運営

仙台市からの委託を受け、仙台多文化共生センターを運営しています。

外国人が日本で生活する場合、文化や習慣の違いから、また言葉の問題から、困難に直面することが多々あります。そのような課題に対応するために関係機関と連携し、在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子どもの教育等の生活に係る適切な情報の提供や、相談対応を行っています。外国人が安心して母語で相談できるよう外国語相談員が直接、または電話・映像通訳等を使用して、全22言語による多言語対応をしています。

より複雑な問題に関しては、出入国在留管理局、労働局、弁護士等による「外国人のための専門相談会」を定期的で開催し、専門家からのアドバイスが得られるようにしています。

外国につながる子どものサポート

仙台市内では保護者と共に来日した外国籍の子どもや、日本生まれの外国ルーツの子どもたちが増えています。当協会では、こうした「外国につながる子ども」のサポートにも取り組んでいます。協会内に設置した相談デスクでは、市内の小中学校に支援コーディネーターを派遣する他、学習教材も貸し出しています。また宮城教育大学と協力し小中学生対象のオンライン教室を年に数回開催しています。会話に不自由はなくても、読み書きや学習で困難を抱える子どもたちも多く、仙台市と共に更なる支援体制の拡充に努めてまいります。



「サポートせんだい」ウェブサイト

外国人住民の日本語学習支援

外国人住民が日本で不自由なく暮らし働いていくためには、一定程度の日本語力を身につける必要があります。しかし、その学習機会を誰もが十分に得られるわけではありません。当協会では、市内の日本語学習環境を整備・拡充するため「地域日本語教育の体制整備事業」を進めています。国際化事業部ウェブサイトで公開している日本語教育のポータルサイトでは、市内十数か所で開催されている日本語教室やマンツーマン指導の日本語ボランティア制度、オンライン教室「SenTIAオンラインにほんご」などを紹介しています。現在は日本語と英語だけの提供ですが、2024年度は多言語化を進めていく予定です。



日本語教育ポータルサイト

外国人対応研修の実施

外国人住民の増加に伴い、公的機関ではコミュニケーションの問題も増えています。当協会では仙台市に協力し、消防局職員対象の通報時を想定した外国人対応研修や、市役所や関係機関の職員向けの「やさしい日本語」研修を実施しています。研修では、市内の留学生や外国出身者に協力いただき、実践的な外国人とのコミュニケーション訓練を行っています。こうした研修は、地域関係者の会合や講座等でも実施可能です。ぜひご相談ください。



「やさしい日本語」研修の様子

仙台・青葉まつりが40回の節目を迎えます

仙台・青葉まつりは、1655年に始まった東照宮例祭・仙台祭を起源とし、仙台藩祖伊達政宗公の没後350年にあたる1985年に復活したまつりです。

1600年に始まった仙台北城築城に携わった、石工の子孫に伝えられたすずめ踊りをまつりに取り入れ、誰もが参加し楽しめる、市民のまつりとして年々規模が拡大し、杜の都・仙台に初夏を告げるまつりとして親しまれています。

第40回の記念となる今年の仙台・青葉まつりは5月18日(土)、19日(日)に開催され、土曜日の宵まつりでは、市内各所で陽気なお囃子の音に合わせて躍動感あふれるすずめ踊りを披露、夕方には提灯に火が灯った宵山鉦が、すずめ踊りとともに定禅寺通を巡行します。

日曜日の本まつりでは、高さ6mほどの山鉦巡行を中心に、青葉神社から街中を回る政宗公神輿渡御や、甲冑に身を包んだ伊達家臣団らによる武者行列、すずめ踊り大流し等、壮大で華麗な時代絵巻巡行が行われます。また、定禅寺通では仙台消防伝統階子乗りと伊達古式火縄銃演武式も披露されます。

地元宮城の美味しい食材を中心に様々なお店が集結する杜の市や、せんだいメディアテーク・まつり交流広場では歴史講座の開催も予定されています。ぜひご参加ください。



【開催日】
2024年
5月18日(土)、19日(日)
【会場】
市民広場、勾当台公園、
定禅寺通、中央通、
一番町通、東二番丁通、
仙台メディアテークなど
【問合せ】
仙台・青葉まつり
協会事務局
022-223-8441

賛助会員を募集しています!

当協会では、私たちと共に観光・物産の振興及びコンベンション誘致・支援などに協力いただける賛助会員を募集しています。賛助会費は、当協会の事業を支える貴重な財源として、仙台市の交流人口拡大のため活用させていただいております。

賛助会員に関するお問い合わせ先 (公財) 仙台観光国際協会 総務企画部総務企画課 企画広報係
TEL : 022-268-6263

会員特典

- 独自に調査したコンベンション情報の提供
- 観光マップ等の月1回無料配送
- 主催セミナーのご案内
- 異業種交流会のご案内 など

